

ROSEリポジトリいばらき（茨城大学学術情報リポジトリ）

Title	III 遺跡各説：10.土偶について
Author(s)	小川, 年以 / 千波, 佳子
Citation	茨城大学考古学研究会報告(2): 46-46
Issue Date	1976-11
URL	http://hdl.handle.net/10109/8178
Rights	

このリポジトリに収録されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作権者に帰属します。引用、転載、複製等される場合は、著作権法を遵守してください。

お問合せ先

茨城大学学術企画部学術情報課（図書館） 情報支援係
<http://www.lib.ibaraki.ac.jp/toiawase/toiawase.html>

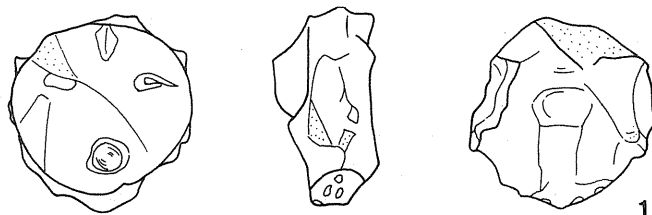
底面は無文である。砂粒を多くふくみ、底面は赤褐色、胴部にいくに従い、褐色・黒褐色と色調が変化する。また胴部には、焼成後にできたと思われるススのあとがみられ、この土器が煮炊きに使用されたことがうかがえる。焼成は良好である。

これらは、すべて後期のものと思われるが11・12は、中でも古いものであろう。

11～14, 16 は文京遺跡(5472), 15は渡里遺跡(5161), 17は堀西原遺跡(5271) 採集。 (森山峰子)

10. 土偶について (第34図)

1. 現残部高4.8cm, 最大幅4.6cmほどの土偶の頭部である。顔面は4.2cm×4.3cmのほぼ円形をなし、目は隆起しており、内部が刺突によって表現されている。額部は中央部が突起し、口は円形で8mmほどのくぼみで、左右の耳は欠損している。後頭部中央に1.7cm×1.2cmほどの欠損部が見られ、その上部かつ左右部には髪の毛の残痕がみられる。顔表面全体と髪の一部に朱が塗られており、以前は土偶全体に塗られていたと思われる。焼成は堅緻で良好である。



2. 現残部高3.8cm, 最大幅4.2cmほどの、土偶の頭部の一部と思われる。破損が激しく、顔面の下半部および頸部が確認できるのみであった。縁辺部は稜をなし、口の周辺は隆起している。口はその隆起に、深さ0.5cm, 1.2cm×0.9cmのだ円形のくぼみをつけることによって表現されている。口唇は肉厚である。顔の輪郭にそって一列に刺突があり、頸部にも同様の刺突がある。また、耳と思われる部分には穴をうがったあとが認められた。裏面の頸部には、表の刺突よりかなり小さな刺突が二列にほどこされている。表裏ともに、朱を塗ったあとがみえる。胎土中に砂粒を含み、焼成は堅緻で良好である。縄文後期に属すると思われる。

第34図 土偶実測図

以上は、アラヤ遺跡(5171)採集の土偶である。

(小川年以・千波佳子)